

参考資料 E

「SNS モニター調査」詳細結果

E.1 「SNS モニター調査」事前アンケートの主な質問項目

- 村公式フェイスブックにどのような感想を持ちましたか。①情報発信の頻度、②写真やイラストの量、③文章の分かりやすさ、④コンテンツ（内容）の魅力度、⑤総合的評価について、5件法で評価して下さい。
- 村公式フェイスブックに対して、上記のような感想を持った理由を詳しく教えて下さい。
- 村公式フェイスブックをより多くの若い世代の人たちに見てもらおうと共に、より多くの若い世代の人たちに魅力的だと感じてもらうためには、何が必要だと思いますか。他自治体や企業の好事例を紹介しながら、あなたのアイデアを具体的に説明して下さい。
- 村公式ツイッターにどのような感想を持ちましたか。①情報発信の頻度、②写真やイラストの量、③文章の分かりやすさ、④コンテンツ（内容）の有用性、⑤総合的評価について、5件法で評価して下さい。
- 村公式ツイッターに対して、上記のような感想を持った理由を詳しく教えて下さい。
- 村公式ツイッターをより多くの若い世代の人たちにフォローしてもらおうと共に、フォロワーに情報を役立ててもらうためには、何が必要だと思いますか。他自治体や企業の好事例を紹介しながら、あなたのアイデアを具体的に説明して下さい。
- 若い世代の人たちに村の情報を届けるために、どのような取組みが重要だと思いますか。①村公式ツイッターの充実、②村公式フェイスブックの充実、③新しいアプリの導入、④登録した分野の最新情報を電子的に届けるサービスについて、重要度を5件法で評価して下さい。
- 村内に住む若い世代の人たちや村外に住む若い世代の人たちに東海村の情報を届けるために、どのような取組みが重要だと思いますか。また、若い世代の人たちに東海村にもっと関心を持ってもらうために、ITや新しい情報媒体をどのように活用すればよいと思いますか。あなたの意見やアイデアを具体的に説明して下さい。
- 村の広報広聴活動に村民を巻き込むために、どのような方策を講じればよいと思いますか。「あなた自身はどのようなかたちなら自治体広報・自治体行政に積極的に参加してみたいと思うか」という観点から、あなたのアイデアを具体的に説明して下さい。

E.2 村公式フェイスブックについて

①情報発信の頻度、②写真やイラストの量、③文章の分かりやすさ、④コンテンツ（内容）の魅力度、⑤総合的評価について、5件法で尋ねた設問への回答結果は本編で紹介した。以下では、事前アンケートで自由記述方式で尋ねた設問への回答とグループディスカッションでの意見を紹介する。

E.2.1 村公式フェイスブックの評価について

(1) 情報発信の頻度について

- だいたい毎日更新しているのでよい。
- ツイッターよりも頻度が多く、写真などを用いて比較的親近感の持てる内容になっていた。
- ちょうど良い。
- 頻度が多いとも感じたが、更新が多いとやはり見ていて楽しい。
- 一日の更新回数が多いのはあまりよくなかった。多くの情報を一度にまとめて発信すべき。
- 一日1～2回の更新が多いか少ないかは人によるので何とも言えない。
- 更新頻度は少ないと思った。

(2) 写真やイラストの量について

- 写真が多く、それぞれの催事がどこでどのように行われているのかが分かりやすい。アイコン画像のゆるキャラが良かった。アルパカーンのぬいぐるみを用いた写真は目を引き興味を持ちやすかった。
- ちょうど良い。
- 写真も多くて面白い。
- 写真の投稿が多くてよい。ただ、もっと人の顔が見える写真が欲しい。

(3) 文章の分かりやすさについて

- 文章が丁寧で、親しみやすくよい。
- 文章もかたくなって親近感が沸く。
- 文章は分かりやすく、量もちょうど良い。
- 文章が分かりやすく、読みやすかった。
- フェイスブックの特性上、長めの文章になると折りたたまれるのが少し面倒。特に、折りたたみを開いたときに少ししか追加の文がないと何とも言えない残念感がある。簡潔に書いて、長くなるようなら公式サイトに誘導したほうが見やすいかもしれない。
- カテゴリでタグ分けをして、記事を見やすく、探しやすくすべき。

(4) コンテンツの魅力度について

- ゆるキャラの活動などが写真つきで紹介されていて面白い。食やイベントに関して実際に活動している様子も見えて興味を引きやすいと思う。
- 内容は非常に魅力的。村主催のコンパなどは参加してみたいと思えし、消費生活学習会も他の自治体にはない珍しいものだった。
- 内容については見ていくうちに参加してみたいと思えるイベントもあった。写真も視覚的に楽しめる効果もあり、村長も身近に感じられた。
- 地域に密着したイベントや情報がまとめられていて面白い。
- 東海村観光協会の記事をシェアしていたのは興味をひきやすく面白かった。特に 23 日に投稿されている副村長がゆるキャラグランプリでイモゾーに投票している旨の投稿をシェアしていたのは、協力的である姿勢を印象付けて親しみが持ちやすいと感じた。
- メジャーなイベントからマイナーなイベントまでの情報があつたのは良かった。
- イベントがあつたという報告が多く、告知の方が疎かに感じた。村民向けという印象が強かった。
- 様々な村内でのイベントを高頻度で紹介、宣伝している点は評価できる。文体がやや硬くて読んでいて楽しいとは思いつらいのと、紹介も単なる内容の紹介に留まっているため、実際のイベントに参加しようとしたときのイメージが湧きにくいと思った。
- 地元で行われたイベントの報告やゆるキャラグランプリの告知など、ありがちな内容だと感じた。
- イベントの告知や報告も魅力はあるが、関心を持ちやすい村の食べ物や農作物などの情報も盛り込めたら良いと感じた。
- 魅力的なコンテンツを揃える場合、フェイスブックだとどうしても村内向けの広報になりやすいため、ツイッターに乗せて拡散しやすくしたほうがよいと思う。

(5) 総合的評価について

- 認知度を広告等で高めれば、今の形態で十分な効果があると感じた。
- 全体的に大変面白く読みごたえがある印象だった。しかし、話題ごとに連続してまとめることができず少々読みにくかった。
- 写真が多く載っていてイベント関連の情報を発信していて見て楽しい情報が多い印象。他のフェイスブックと比べたときの強みは無いように感じた。
- ツイッターに比べると☆などの記号を用いていたり、更新もされているので「まあ良い」の感想を持った。

E.2.2 村公式フェイスブックをより多くの若者に見てもらうためのアイデアについて

(1) イベント情報の出し方（村外への情報発信方法を含む）について

- 書き手が名前を出して、親近感を得られる存在になっても良いかもしれない。「職員も参加しているんだぞ。」といったアピールをしてもいいと思う。
- これまでの投稿のようなイベント紹介の記事に、主催者の準備や努力、裏話、それを体験した参

加者の声などを取り入れるとよいのではないか。

- 行事ごとではなく、常に更新することも大事だと思う。例えばイベントがなくても、季節や季節の変わり目のことを話題に出し、そこから名産品やイベントの宣伝につなげると良いのではないか。
- 魅力的にするとしたら、村内イベントの告知や募集もできるといいかもしれない。その土地の話のネタになるような歴史や、原発の情報なども載せるのもアリだと思う。
- 観光関連の記事もイベントがメインで村民向けになってしまっている気がするので、村外の人へ観光に行きたいと思わせるアピールをすることもよく考えた方が良いのではないか。

(2) 写真やゆるキャラの活用について

- フェイスブックを利用する際に注目されるのは、投稿されている写真。例えば、北海道の小樽市役所や網走市役所のフェイスブックには観光地や景色の美しい写真が多く投稿されている。福島県のフェイスブックは職員の挨拶から文章が始まり、職員や地元の人顔が写った写真がたくさん投稿されていて、地元愛が伝わってくる。石川県七尾市も、活動風景だけでなく人同士の触れ合いなど写真を有効に使っている。東海村の公式フェイスブックの写真には、村の綺麗な景色や村民の表情を写した写真が少ないと感じる。村内の様々な催しについて取り上げられているが、人の後ろ姿を撮った写真が多く、楽しそうに参加していることがあまり伝わってこなかった。もっと村の景色や人の笑顔を写した写真を投稿すれば、東海村が魅力的な村だという印象が生まれると思う。
- ゆるキャラのイモゾーのキャラ付けをフェイスブックでやっていくのもよいのではないか。伊藤ハムのフェイスブックでは、ハム係長というキャラの日常を紹介している。村公式フェイスブックでもイモゾーを活用していけば、若い人にも見てもらえるのではないか。また、伊藤ハムのフェイスブックの料理の写真がとてもよいと思ったので、村公式フェイスブックでも、特産品を使った料理の写真を載せてみたらどうか。
- 水戸市のフェイスブックには、マスコットキャラクターであるみとちゃんが頻繁に写っている。ゆるキャラグランプリへの告知も一度だけでなく、何回も行われている。その自治体のマスコットキャラクターがうつる写真はよく目に留まる。

(3) 村公式ツイッター等他の情報媒体との連携や棲み分けについて

- 内容は現状でも非常に良いので、認知度を高めることが重要だと思う。多くの人に見てもらうため、フェイスブックが更新された際にはツイッターで宣伝するといったツイッターとの連携を図るとよいのではないか。
- フェイスブックは、自発的に見ない限りなかなか進んで見ない印象がある。より気軽に情報共有できるが文字制限のあるツイッターに概要を書き、比較的詳細に書いたフェイスブック記事のURLを記載して相互利用を進める等により、認知度を高める必要がある。
- 広報誌の隅でもよいので、毎号公式フェイスブックを開設していることを記載して周知に努める。できればQRコードなどアクセスのしやすい形式だと良い。
- 魅力的な対外向けコンテンツはツイッターに、実用性のある村民向けコンテンツをフェイスブッ

クに書いた方がよいかもしれない。

(4) 住民の巻き込みについて

- 役場から利用者への一方向的な発信にするのではなく、利用者の意見や声を取り入れる双方向性や東海村側と利用者が共に創り上げていくことで、魅力を高められるのではないか。例えば利用者が身近な面白いイベントやPRしてほしいこと等を投稿できるページを設け、特徴的なものがあれば訪問取材をするのはどうか。
- 学生や幼稚園などの子どもを巻き込んだ活動を行い、その記事をフェイスブックに載せれば、親や兄弟が見たり、学生がその後もチェックしてくれる可能性が高くなるのではないか。

E.3 村公式ツイッターについて

①情報発信の頻度、②写真やイラストの量、③文章の分かりやすさ、④コンテンツ（内容）の有用度、⑤総合的評価について、5件法で尋ねた設問への回答結果は本編で紹介した。以下では、自由記述方式で尋ねた設問について、事前アンケートで自由記述方式で尋ねた設問への回答とグループディスカッションでの意見を紹介する。

E.3.1 村公式ツイッターの評価について

(1) 情報発信の頻度について

- フォローしていても流れてしまい見られないほど少なかった。
- 更新が約5～6日に一回と、頻度が低かったのが気になった。ツイッターにはタイムラインの早い利用者がたくさんいると考えられるので、これでは他の情報に埋もれてしまうのではないか。
- タイムラインを眺めていると、東海村公式アカウントのつぶやきが流れてくるのが少ない。わざわざ公式アカウントのページまで飛ばないと投稿を見られない。更新頻度が低いほど情報が目に入りにくいと思う。意図にあった頻度とも思わない。
- ツイート数はしつこくなく適度でよいと思う。ツイッターをあまり使わないので、頻度が少ないとはあまり感じなかった。
- 情報の発信頻度はとても良い。あまり頻繁に更新していると、ツイッターの画面が同じアカウントが埋まってしまう鬱陶しく思われることがある。

(2) 写真やイラストの量について

- 写真やイラストについては、ちょうど良い量だと感じた。
- 載っている写真の量が少なく、内容も地味。タイムラインで東海村ツイッターの画像が目立っていない。写真だけ見ても魅力のあるものが無い。
- 写真のインパクトが小さい。宣伝のための写真というよりは普段の日常風景というような印象を受けた。有効性が低いのでは。
- 写真が少なく、文章も固めなので、分かりやすいが親近感を感じない。

(3) 文章の分かりやすさについて

- いつ、どこで、何をするのが詳しく書かれているため、わかりやすい。
- 簡潔で読みやすく、わかりやすい文章でとても良い。しかし個性が薄い。
- 丁寧でわかりやすい。少し硬すぎる。ほとんどの文章が「。」で終わっている。もっと！マークを使うことや、問いかける（みませんか？）内容を増やしてみるといいと思う。また、「詳しい内容は～」と村公式ホームページに飛ぶことが多すぎる。簡単に内容や時間にも触れたうえで、詳細な情報は村公式ホームページへとした方が、見ている人に親切でないか。
- 意見、質問等をどこに寄せればいいのか分かりにくかった。
- 村政懇談会が具体的にどういったことをするのか、雰囲気掴みにくかった。

- 発信者によって文体が異なっている。

(4) コンテンツの有用性について

- 普段行政が発信する行政情報を確認する習慣が無かったので、今回行政が様々なイベントや情報提供を行っていることを知った。
- コンテンツの有用性は、村民にとってはあると思う。イベントなどをポスターやチラシなどの媒体以外で告知できている点が有用である。外への広報もするつもりであるならば、少し変える必要があると思う。
- 交通規制や災害情報に関するつぶやきは役立つ。一度だけでなく何度か発信してもよいと思う。
- イベントの情報や何かの締切、申込み開始などをツイッターで知らせてくれると役に立つ。
- 東海村には原発があるので、今は被害がないことなど、外への呼びかけも有効かも知れない。
- 村政懇談会の予告を目にしたが、経過報告や事後報告がある方が次につながってよいと思う。また、どのようなことを話し合っ欲しいかを募集してもよいと思う。
- 情報が少なすぎて不便に感じるが多かった。
- 詳細を広報誌に載せるなら、今までの方法と変わらない。
- イベント情報については村公式フェイスブックと住み分けが上手くできていないように見えた。
- 議会でどのようなことが議題にあがったのか、どのようなことを話したかをできる範囲で情報開示するとよいと思う。

(5) 総合的評価について

- 趣旨通りの情報という印象。仕方ないのかもしれないが、没個性的な役所の情報発信といった印象で、あまり面白いとは感じなかった。
- 行政情報を淡々とつぶやくという趣旨は理解するが、少しまじめすぎる。もっと読んで楽しいつぶやきがほしい。
- フォローしていることにあまり意味を感じなかった。
- 事務的内容というか面白さに欠けていて、ずっと見ていきたいと思えない。

E.3.2 村ツイッターをより多くの若者にフォローしてもらうためのアイデアについて

(1) 情報発信の頻度について

- ツイッターはフェイスブックよりも敷居が低く、若い世代の人たちも多く使っているので、まずは高い頻度でつぶやくことが大事なのではないか。例えば、東海村の情報（人口、歴史、名産など）を定期的に豆知識のようなかたちツイートしていけば、多くの人にみてもらえると思う。
- 何気ないことでも良いのでつぶやき、更新頻度を上げたほうがよいと思う。タイムラインでつぶやきを見る人が多いので、更新頻度が高いほど情報が目に入りやすくなる。
- オフィシャルなアカウントでは、一日に3～5回ぐらいがちょうど良いと感じる。
- イベントの告知が一回きりでは少ない。
- 若者が実際に参加してみたいと思えるような広報にすべき。水戸市アカウントのように、イベン

トの盛り上がりが見えるような発信頻度にする必要がある。現在は盛り上がりも見えづらいし、頻度も少ない。

(2) 面白くするためのアイデアについて

- ツイッターはフェイスブックよりも情報の共有がなされやすいこと、かつフェイスブックよりは若年層も利用する傾向が強いことから、もっと柔らかい印象を与える話題（フェイスブックでは紹介されていた「おいもスイーツレシピコンテスト」やゆるキャラについて等）も時折でよいので取り上げる必要があるのではないかと。
- 自衛隊の広報のように「緩やかな広報」としてやっているアカウントにはかなりのフォロワーがあり「誰がフォローしていてもおかしくない」状況で、情報が広めやすくなっている。
- 利用者にフォローするメリットを感じさせてほしい。例えば、定期的に放射線情報を投稿し、安全性を伝える等。
- ゆるキャラのなりきりアカウントを作ると、面白味があって若い世代の人々の認知度も高まると思う。例は、くまもん、岡ざえもん。
- アカウントを複数作り、使い分けてはどうか。災害情報など大切な連絡は、ツイッターのリツイート機能、引用リツイート機能を使うことで、どちらのアカウントのフォロワーにも情報を伝えられる。ツイッター利用者は気軽に両方フォローしてくれると思う。
- 別アカウントを用いると、結局どちらかのフォローを外すことになるのではないかと。同一アカウントで重要なものも愉快的なものも流す方がよいと思う。
- 複数アカウントについては、中途半端なすみわけはしない方がよいと思う。ツイッターの運営目的を明確にして、プロフィールにいろいろな情報（URL をつけたり）するとよい。世田谷区のツイッターでは、約款などの URL もプロフィール欄に記載されている。参考にしてみてもどうか。
- 別アカウントを用いる場合、重要な情報はどちらでも強調すべき。
- 文章を、もう少し親しみを持てるように口調にするか、書き手の個性が見えるようにするとよいと思う。有名企業のアカウントでも、担当者が実名で投稿しているものがある。村公式アカウントでも村職員の個性を出して、その人なりの情報発信があってもよいと思う。
- ただ村の情報を発信するだけでなく、見て面白い内容にする必要があると思う。例えば、アニメイト郡山のツイッターは、商品の情報はもちろん、個性的な店長を中心に楽しく働いている様子も喧嘩されているので、情報の入手のためというよりネタとして楽しめる。村公式ツイッターでも村職員の日常（お昼休憩の様子、内部で流行っているもの等）など読んで面白いつぶやきも発信していけば、若者も興味を持つのではないかと。

(3) 村公式ホームページ等他の情報媒体との連携について

- リアルタイムな情報（災害、犯罪、イベント等）を出して、直ぐにホームページにリンクを張り、詳細がすぐ見られるようにするとよいと思う。
- ツイート内容を詳しく掲載したホームページがあれば、URL を呟きと同時に掲載しておく（リツイート機能で単体のツイートを見た人が即座に内容を知ることができるため）。
- ツイッターで伝えるには長い情報などは、URL や画像を載せる。ただし、ホームページに誘導す

るのを目的にツイートが簡素になっているものもあった。そうではなく、ツイートに詳細を載せて、さらに興味のある方にはホームページに飛んでもらうのがよいと思う。

- ツイッターからのリンク先の村公式ホームページのページがなくなっているのは、なくしたほうがよいと思う。例えば、8月13日の「図書館まつり」のページがなかった。
- ツイッタープロフィール欄に問い合わせ先、もしくは1文ホームページから問い合わせる旨など案内を記載するとよいと思う。

(4) 住民の巻き込みについて

- イベントの情報を流す際、若い人の参加を促す工夫が必要。例えば村政懇談会の写真には若い人が写っておらず、若い人が参加しにくいと感じた。イベント中なども写真付きでツイートし、若い人が楽しく参加している様子の写真を載せれば、参加してみようという気持ちになると思う。
- 主体的な住民参加を促すような情報提供及び住民の要望が多く取り入れられるような SNS にしてはどうだろうか。住民の要望・生の声が投稿できるような仕組みを設け、それに誠意をもって対応する行政の姿勢が見られれば、住民の積極的参加が促せると考える。
- 水戸市のツイッターと比較して、イベントの実況を活発に行って盛り上げていくべきだと感じた。水戸市の黄門まつりでは、途中経過を伝えていて「今からでも行ってみよう！」となる。最近の例だと、「7月25日の環境フェスティバル with キャンドルナイト」も途中経過をもっと更新してもよいと思った。
- フォロワー限定のイベントやハッシュタグを利用することで、フォロワーを増やせるのではないだろうか。「リツイート割引システム」のように生活とツイッターを結び付ける、村のポスターの画像や参加したイベントの様子等をハッシュタグ付きで投稿すると特典がつくようにするなど。

E.4 若い世代に行政情報を確実に届ける方法について

①村公式ツイッターの充実、②村公式フェイスブックの充実、③新しいアプリの導入、④登録した分野の最新情報を電子的に届けるサービスについて、重要度を5件法で評価した設問の回答結果は本編で紹介した。以下では、事前アンケートで自由記述方式で尋ねた設問への回答とグループディスカッションでの意見を紹介する。

(1) 全般的意見

- まず、若年層のどんな人に来てほしいのか、どんな属性の人なのかというターゲットを明確にしたうえで、その人たちに向けた広報・宣伝を練る必要があると考える。東海村がアピールできるポイントもきちんと明確にすべきであろう。多くの情報を提供したとしても全てを閲覧できるわけではなく、アピールしたい多くのメッセージを伝えようとしても一つ一つのメッセージの影響力は薄まってしまうものなので、具体的取り組みを考える前に、自分を知り相手を知り、その上で取捨選択をしたITや情報媒体を利用すればよいと思う。
- 若者に限った話ではないが、住民が積極的に得ようとする情報は自分の好きな話題に偏る。そのため、どの情報媒体を活用するとしても情報の硬軟をうまく組み合わせて誘導する必要がある。
- 村外の若い世代に対しては完全に村外の人に向けた情報発信のコンテンツが必要になる。例えば、ツイッターで観光客や移住者向けのアカウントを作り、写真などで魅力発信したり、ユーチューブでPR映像を作った後そのアカウントやホームページにURLを載せたりすればよいのではないかと思う。
- 原発の情報や行政の優遇措置などの広報が有効だと思う。

(2) 新しい情報媒体の導入に否定的な意見

- 現在出ているアプリという案には反対。スマートフォンの容量をとってしまい、ホームページで済むものならわざわざアプリで見ようとは絶対に思わない。
- メールマガジンなどは、しょっちゅう来ると面倒。ラインなどは若い世代に有効かもしれないが、それで通知がされるというのも面倒に思われる可能性がある。管理のしやすさ的にも、多くのことに手を出すより今あるものを見直しをするべき。ある程度の動画はツイッターにも投稿できる。
- ユーチューブを用いた自治体の広報活動に関わったことがある。閲覧数を伸ばすのは容易ではないと分かったので、そのような新アプリの導入には否定的。
- 村外に住む若い人に東海村に住むとどんなメリットがあるのかユーチューブなどで発信していくのも良いと思う。ただ、ユーチューブは興味を持ってもらわないと見てもらえないので、フェイスブックやツイッターのフォロワーを増やし、SNSで宣伝するのが先だと考える。
- ライン等の導入も効果的かもしれないが、いたずらにたくさん送ってくる人は確実にいると思う。何でもかんでも手を出すと管理が大変になるため今あるものまたは今後出るもので特に影響力があると考えられるものに集中するほうがよいのではないか。
- マイナポータルについては、特に高齢者には難しいし、個人情報に関する不安も多く利用が進ま

ないのではないか。

- 大学生は特にフェイスブックよりもツイッターをよく見ているので、ツイッターこそ、かたくりしい情報ばかりではなく、楽しく明るい情報を流すと良いと思う。
- 若い人にもっと知ってもらうことが重要なので、もっと親しみやすい内容にしたり、公式ツイッターやフェイスブックがあることをアピールすることが必要。
- 水戸市や茨城県も公式の SNS を持っているの、リツイートなどの機能を使っていけば、若い世代の人々にも存在が伝わると思う。
- 住民を巻き込んだ活動を増やし写真等を頻繁にあげることで見てくれる人が増え、ツイッター等を確認する機会が増えるのではないか。
- マスコットキャラクターのイモゾーを村公式 SNS でもう少し活用すると良いと思う。
- 今ある SNS でホームページをアピールしていけばよいと思う。例えば、ホームページの文の要約をツイッターやフェイスブックに投稿すれば、多くの人に見てもらえるし、より詳しく知りたいツイッター利用者はホームページを見てくれる。
- 埼玉県鶴ヶ島市が今年創刊した若者向け広報紙には QR コードが記載されている。URL が記載されていても入力面倒に思うときがあるので、媒体間の相互性があると良い。
- ホームページのデザインがパソコン用とスマホ用では異なり、スマホ画面が地味でイメージが良くないと思った。

(3) 新しい情報媒体の導入に肯定的な意見

- 新アプリの導入はユーザーにとってスマホが重くなる要因だしガラケーでは見にくい、もしくは見られないということもある。新アプリの導入ではなくメールマガジン等の媒体なら、ガラケーを使う人も見られるし、興味のある分野について知ることができて良いかもしれない。ただし、迷惑メールと同じように感じてしまう可能性もある。
- 今の若い人は自分からはあまり情報を獲得しにいかないと思う。メールマガジンや通知機能があるアプリを使うと、住民が受け身の姿勢でも情報を受け取ることができる。
- ラインを導入するのが良いと考える。ラインは多くの人が使っているし、情報の通知が来るので読まれやすい。重要な情報をラインで通知すると、村の情報が一気に伝達できる。東海村のラインに登録した人に何かプレゼントをするなど特典をつければ、村外に住む人も登録してくれるのではないか。特に、原子力安全に関しては東海村の情報の中で 1 番注目されるものなので、原子力安全情報を専門に発信するサービスを導入するのも良いと思う。
- ラインは、通知・通知音はオフにしても、自分が見たい時に見ることはある。楽しいことから真面目な情報まで届く方がよいと思う。ツイッターの情報発信頻度が高くなれば見なくなる可能性があるかもしれない。導入するなら、ターゲットを絞るとよいのではないかと。
- 個々人に合ったお知らせ型の情報を掲載してくれるマイページに、娯楽色のある情報（軟）を取り入れることでアクセスを促し、関連する記事（硬）を下部にリンクさせることで興味を引くことを提案したい。内容は参考にしにくい、次々に記事を読みたくなるという点では NAVER まとめ、MERY などのウェブサイトが上手く誘導がなされているように思う。

E.5 若い世代の村広報広聴活動への参加を促す方法について

事前アンケートで自由記述方式で尋ねた設問への回答とグループディスカッションでの意見を紹介する。

(1) 情報公開について

- 住民が広報広聴活動に参加するのは、自らの主体的参加によって実際に東海村行政・広報が変化すると実感できている場合であろう。意見を言っても何も変わらなければ、参加が無意味に感じられてしまう。それを防ぐためには、スーパー等サービス業でのご意見板のように、住民からの要望を誰もが見られるようにし、役場の対応や実際の進捗状況等を積極的に公開するようにし、意見が反映された事例が多数登場すれば、主体的参加の意義を実感し、行政への信頼感が増すのではないかと。
- 今までの住民の意見について、どこがどのように動いて実際に反映されているのかが分かる情報をなにかしらのかたちで知ることができると、参加したいと思う。現在も村公式ホームページ上で「村民からのご意見紹介（村民提案実績報告）」で一覧できるが、意見が反映されにくいのではないかと印象を受けた。特に反映されたものをピックアップし、「このように意見を取り入れているよ！」と堅苦しくない表現で、わざとらしいくらいアピールしても良いのではないかと。例えば、村広報誌にコーナーを設けて毎月紹介し、若者からの意見を別途で紹介できるとなお良いと思う。

(2) 対面の意見交換会について

- 若い世代向けの、あまり堅苦しくない意見交換会があれば参加希望者はいるのではないかと。お菓子を食べながらの和やかな意見交換会なら、気軽に参加できると思う。その様子をフェイスブックに投稿すれば、参加したいと考える人も増えると思う。目的のすり替え（村長と話す会ではなく、お食事会に村長が来て話す）をしてもよいのではないかと。
- 純粋に報酬があると参加しやすいと思う。金銭的なものだけでなく、有益な情報が得られたり、普段できないような体験ができたり。あまり時間のかかるものは好まれないと思う。
- テーマがないフリートークだと、行く気になれない。テーマがあれば、ある程度意見を準備し、まとめてから行けるので、テーマを設定するとよいと思う。
- ゆるキャラと話す会（ゆるキャラが書き文字で答えたり、通訳を使ったりする）も良いのではないかと。
- お祭りなどのイベントの会場付近や、スーパーなど比較的住民が集まりやすいところで行うことも大事だと思う。
- 地域のイベントに興味があるので、村民なら「村長ふれあいトーク」のようなイベントに行きたいと思うが、イベントの存在を知る機会を得にくいのではないかと危惧する。SNSのフォロワーを増やしイベントの告知を積極的に行うべきだと思う。
- 来てもらうのではなく自分達が学校等に赴いて活動に巻きこみ、問題を提示して解決のためにどうすればよいかを考えてもらったり、助言等をしながら実際に一緒に活動するとよいと思う。幼

い頃に市長と触れ合った経験は、記憶によく残っている。

(3) オンラインでの広聴や住民参加について

- 直接意見を言うのは、少し敷居が高い。ホームページや SNS で匿名で意見ができ、それに対する反応があるとよいと思う。
- ツイッターやフェイスブックで住民参加を募ったり、当日予定があって参加できない人のために、意見をメールなどで募集したりすることもできると思う。
- わざわざ役場や距離のある場所に赴かなくても参加できるなら参加する人も多いと思うので、ツイッターのリツイートやハッシュタグ、リプライなどを通じてそうした活動ができればよいと思う。
- 意見をくれた人に抽選で何かプレゼントなどをすればより参加したくなる。
- 市民が気になっていることなどを市の運営側等に質問できる市民記者の場を設け、またその様子をユーチューブなどで流してみると面白いと思う。

以上